

令和5年度第4回
射水市高齢者保健福祉・介護保険事業計画推進委員会会議録

1 日 時 令和6年2月5日（月）午後1時30分～午後3時00分

2 場 所 射水市役所（本庁舎）会議室302・303

3 出席者

(1) 推進委員会委員 13名

宮嶋会長、新鞍副会長、野田委員、多比木委員、義本委員、笹本委員
紺谷委員、森本委員、小林委員、寺林委員、向田委員、篠田委員、二瀬委員

(2) 事務局 12名

小見福祉保健部長、轟福祉保健部次長、山口地域福祉課長、菓子介護保険課長、
政岡保健センター所長、長谷川地域福祉課課長補佐、浅井地域福祉課地域ケア
推進係長、田中介護保険課長補佐、坂井介護保険課介護保険管理係長、坂本保
健センター健康増進係長、熊藤介護保険課介護保険管理係主任、井村地域福祉
課福祉政策係主任

[会議次第]

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) パブリックコメントの結果について

(2) 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の最終案について

ア 第3回委員会からの変更点について

イ 保険料の算定について

4 その他

5 閉会

[会議録]

<p>会 長</p>	<p>議題 (1) パブリックコメントの結果について (2) 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の最終案について</p> <p>ア 第3回委員会からの変更点について</p> <p>これまでの説明の中で質問、意見等があればいただきたい。 説明の中にパブリックコメントがあったと思う。行政ではパブリックコメントを行うことが当たり前だが、一人か二人くらいしかパブリックコメントが出て来ないのが現状である。今回、射水市では14名からパブリックコメントがあったが、実はほとんどが富山福祉短大の学生である。地域福祉と包括支援体制を学ぶ授業があるのだが、その中で今回、この高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について市の方から説明をしてもらい意見を提出させていただいた。</p> <p>学生達は2年生になると、各自住んでいる市町村の地域福祉計画を見比べる授業があるのだが、毎年のように「文字ばかり羅列してあってさっぱり分からない」、「専門用語が多くてよく分からない」といった声が聞かれる。パブリックコメントも同じで、専門的な意見よりも「この説明はどういう意味か」という意見が出ているのだと思う。</p> <p>一方で、「どうしてもっと市民に見てもらうような取り組みをしないのだろう」という声も毎年出てくる。せっかくパブリックコメントが行政の窓口や公民館等、またインターネットでも見ることができているのに、それを知っている市民がほとんどいないという現状である。それを変えた方が、より市民の意見が聞けるのではないかと。今後もいろいろな行政計画が作成される中でパブリックコメントが実施されると思うが、「いかに市民に見てもらえるか」という取組が大事だと思う。</p> <p>委員の皆さんは、実際にパブリックコメントを期間中にご覧になったでしょうか。皆さんが見ていないのに、市民が見るわけがないと思う。分厚い計画書ではあるが、ご質問があればお願いしたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>4ページの市の計画について、上位計画からの矢印が双方向ではなく一方通行に今回変わっている。第8期計画では双方向を向いていた。これはやはり見直した結果だと思うのでこの辺りの説明をお願いします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>第8期計画では、双方向の矢印を使っていたが、市では第3次射水市総合計画が最上位計画と捉えている。その下の計画については、上位計画を基とした考え方になると思う。下の計画が上の計画に影響を与えるものではないという考え方で、矢印は上から下への一方通行にした。</p>

	<p>この部分は変更点としての説明が漏れていた。もう少し補足をする、矢印を修正するにあたって、庁内からも、「調和」なのか、「整合」なのか分からないという意見があり、そこをしっかりと明記した。第8期計画は分野別計画との位置が分かりづらかったというところもあり、なるべく分かりやすく表現したいという思いから記載を修正した。矢印の「調和」と「整合」も国の基本指針の中でしっかりと明記されているので追加した次第である。</p>
委員	<p>「調和」と「整合」はどういう使い分けか。市の分野別計画の場合は「調和」、市と県の計画との場合は「整合」と思っていたが説明してほしい。</p>
事務局	<p>庁内の場合は調和を保つ、外部の計画とは整合性を保つという捉え方になる。県の計画同士で整合という言葉が使っている点については、一度確認してしっかりと明記する。</p>
委員	<p>11ページについて、イラストを使用したのは良かったと思う。視覚に訴えるのはとても大事で前よりも見やすくなった。</p> <p>59ページについて、「社会参加の推進と生きがいの創出」とある。この中に地域活動に年1回以上参加している人の割合を、「ボランティアグループ」と「老人クラブ」で載せてある。今はどこも高齢化社会であり、人集めが大変というのはみんな一緒である。この目標値はもちろん大事だが、具体的なことをある程度明記した方が分かりやすいと思う。この辺りをどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>ボランティアグループと老人クラブの目標値について、基準値の部分がコロナの影響で割合が少し下がっていた。その上で、コロナ前の状況に戻したいという思いからこの目標値を設定した。また地域活動にはいろいろなグループ等あるが、市として数字を把握しているということで、今回ボランティアグループと老人クラブを指標としている。</p>
委員	<p>老人クラブと同じように「地域ふれあいサロン」があるが、この辺りの整合性を聞かせてほしい。</p>
事務局	<p>地域ふれあいサロンは、令和5年度から地域振興会で行っている「地域支え合いネットワーク事業」と合わせて実施する活動に切り替わった。その中で地域ふれあいサロンをどのような形にしていくかは、その地域の実情に応じて活動してもらいたいと考えている。</p> <p>老人クラブも、地域によっては支え合いネットワーク事業と連携してい</p>

<p>委員</p>	<p>るところがあると思うが、老人クラブは老人クラブ連合会としての活動なので、団体として活動を継続できるような体制を、市としても支援してまいりたい。</p> <p>コロナの影響で関係でこの目標値を出されたのは分かったが、高齢化率が上がっており、役員の人たちは非常に苦勞している。市の方としてもその辺りの状況を把握してほしいと思う。</p> <p>私はボランティア団体代表として出席しているが、ボランティアの人口もだんだん減ってきている。その中で「できることをやってみよう」、「皆さんの笑顔が見られることをみましょう」と活動している。その辺りの状況も聞いてもらえれば嬉しく思う。</p> <p>もう一つ、60ページの「活躍する場の確保」ということで、「自主的な社会貢献活動の推進」についてもしっかりとお願いする。食生活改善推進員は、高齢者の健康維持に食が関係しているとしてレシピを広報に掲載するなど活動している。市にはその辺りも状況をよく把握してほしい。せっかく素晴らしい事業計画を作るのであれば、多くの人に見て知ってほしいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>指摘のあった59ページについて、「地域活動」という言葉からすれば老人クラブ、ボランティアグループだけでは範囲が狭すぎる。射水市が取り組もうとしている支え合いネットワークを地域活動の中核というふうに考えれば、老人クラブ、ボランティアグループへの参加よりも「地域支え合い活動への参加」とした方がより具体的で、地域に参加すると分かりやすい。今回変更できるかどうかも含めて事務局で検討してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>能登半島地震では福祉避難所のことが大きく話題になった。今回の計画の中でも能登半島地震を意識して書いた方が良いと思う。例えば「安全・安心」の部分で能登半島地震について文言を書き込むところがあってもいいのではないか。</p> <p>介護人材が本当に不足している。介護人材不足について、なかなか無いとは思いますが具体的な手段を射水市として何か手を打てたらいいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>66ページの「防災対策の推進」ところで地震について示している。今回の能登半島地震で、防災意識を持つことや災害対策の大切さをあらためて実感した。委員ご発言のとおり修正する。</p> <p>介護人材の確保について、「これだ。」という解決策は無いが、第9期計画では91ページで示すとおり「外国人人材の確保のための支援」に力を入れていきたいと考えている。他の県内保険者があまり取り組んでいない</p>

<p>会 長</p>	<p>ところに手を伸ばし、しっかりと人材確保支援を行いたいと思う。</p> <p>外国人人材は、全国的に見ても一時期に比べると福祉の方になかなか入って来ないという現状がある。うちの短大の社会福祉学科でも、留学生は1年生に2人、2年生は1人いるが来年は0人である。</p> <p>外国人人材が現場で働いた時、確かにそこで人材は確保されるかもしれないが、知識、技術の足りない人がそのまま現場に入るという課題がある。受け入れた後、どうやってその人達の質を高め、できるだけ長く働いてもらうかという対策まで考えないといけない。ただ単に外国人を現場に入れただけでは2、3年後にはまた人材不足になってしまう。しかも、今は日本に来るよりも他の国に行った方がお金は儲かるという状況である。そこまで考えないと外国人人材の活用は難しいと個人的には思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>11ページの人口統計を見ると、高齢化率が高くなってきているが、在宅ケアマネジャーの数がなかなか増えず、現状維持が精いっぱい支援を断る場合もある。居宅のケアマネジャーの支援担当数が、1人当たり45件に上がるということだが、45件担当するのは大変な数である。現状で言うと35～40以下というところである。国で示された数が現場の人間を苦しめていると感じている。</p>
<p>会 長</p>	<p>要介護者が増えていく中、45人はきついと思う。1か月を土日含めて30日としても、しっかりとアセスメントをして計画を立てるには30人くらいがぎりぎりだと思う。介護報酬の絡みなどで45人まで担当してほしいという国の考えは、これで良いのかと私も思うところである。かといってケアマネジャーを増やせるかということと人件費の絡みも含めてそれができるのかといった部分がある。</p>
<p>委 員</p>	<p>ケアマネジャーのなり手がなかなかいない。</p>
<p>会 長</p>	<p>うちの学生に5年後、10年後の自分を書いてもらおうと、ケアマネジャーを目標にしている学生が結構いる。多分、現場に入った後でないといけない部分があり、ケアマネジャーの仕事がやりたいと思える仕事になっていないのでないだろうか。</p>
<p>委 員</p>	<p>土曜日、日曜日に家族から連絡が入って全然休みが取れなかったり、家族が介護の責任を放棄していたりすることで、ケアマネジャーの負担が大きくなり、心が折れてしまうこともある。</p> <p>あと、時代だろうか、「言ったもん勝ち」というのか、要求を強く言われ</p>

	<p>る家族も多く、「上の方に言うぞ」とハラスメント的な発言をする利用者の家族もいる。新しいケアマネジャーが育つのに2、3年と時間と手間がかかっているのが現状である。</p>
<p>会 長</p>	<p>難しいが大事な職業である。ケアマネジャーを一人きりにさせない、フォローする仕組みや体制が各事業所には必要であるが、そこにも人は必要で、最終的には人材が足りないというところに落ち着いてしまう。</p>
<p>委 員</p>	<p>市の地域福祉課や包括とも連携しながら、なんとかケアマネジャーの負担が減っていると思う。地域福祉課には本当にお世話になっている。</p>
<p>会 長</p>	<p>引続きよろしく申し上げます。</p>
<p>委 員</p>	<p>資料1の11番に「家族介護者への支援の充実」がある。要介護者のいる家族に対する社会の目が少しずつ変わってきていると感じるが、これからもいろいろな支援をやっていただけたらと思う。</p> <p>最近、「認知症と家族の会」の集いに来られる方を見ると、現在要介護者がいる状態で参加する方もいるが、以前介護をしていた、要介護の方が亡くなれば、介護者としては卒業された方も、「今困っている方の支えになりたい」と参加される方もいる。市内には介護経験の豊富な方がたくさんいると思うので、そういった方をどんどん発掘して、今困っている方の話を聞く場所が増えると良いと思う。</p> <p>人材不足について、介護ロボットもかなり優秀になってきている。以前デイサービスで働いていた時に介護ロボットが一台いたが、よい仕事をしていた。レクリエーションの際には多くの人材が必要だったが、ロボットが一台入ることによって少ない人数で行える。現状では、介護ロボットに触れあえる機会があまり無いし、市民も介護ロボットを見たことが無いと思うので、市役所に介護ロボットを置いて触れてもらい、在宅介護をしている方が「家で使ってみようかな」となれば良いと思う。歌もゲームもたくさん知っているし、いつも笑顔で機嫌を損ねることもない。活用できれば良いと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>今の介護ロボットは本当にたくさん種類がある。今年度、コロナが明けて久しぶりに「福短祭」を実施した際に、大学と射水市との連携事業で『福祉で花咲く』というイベントを行った。「介護劇」とか「認知症VR体験」の他に「介護ロボットの紹介」、「ロボットの体験のブース」を設けたのだが、知らない人が多くいた。やはりそれを知る機会がより多くあれば、「独り暮らしで心配だから導入してみよう」ときっかけがあ</p>

	<p>と思う。県社協にはいろいろ置いてあるが、あそこは存在自体が一般に知られていない。市、地区レベルで目に見える、触れ合える場が日常的にあれば介護負担軽減につながると思った。市の方でもまた考えてほしい。</p>
委員	<p>会長のご指導のもと、事務局のご尽力により素晴らしい計画ができたと感じている。私はパブリックコメントが募集されていたことを認識不足で知らなかった。そういったことが多々あると感じており、せっかく素晴らしいものがあったら見てもらわなければ意味がないと。少しでも広く手に取ってもらえるような環境があるといいと思う。こういった立派な冊子だと目を通すにしても時間がかかるので、ダイジェスト版や、簡潔に見られるスタイルのものがあれば良いと思った。</p>
事務局	<p>本日の資料に概要版を配布させていただいた。分厚い計画の中身を8ページにまとめたもので、こちらを図書館や地区センターに配置し、出前講座で活用するなどして市民の方々への周知を行ってまいる。</p>
会長	<p>この概要版は全戸配布される予定か。</p>
事務局	<p>全戸配布ではないが、ホームページに掲載する。実物となると、図書館や地区センターに置いてあるものを見ていただくことになる。</p>
委員	<p>地域ふれあいサロンや100歳体操は素晴らしい企画だと思うが、発足時はすごくワイワイガヤガヤと人が集まっているが、私が知る大門地区など、だんだんと少なくなっている。高齢者は当然卒業する人が出てくるので、もう一度足元を見直してもらいたい。</p> <p>もう1点、私が民生委員をやっていた時、一人暮らしの高齢者が救急搬送された時、後の面倒を見る家族との連絡がつかなかった。一番面倒を見る家族には市役所等の機関が連絡した方がスムーズにいくと思う。介護施設に入所されても一度も会いに来ない等の苦情も聞いている。</p>
会長	<p>一人暮らし高齢者の親族が県外にいて、その後の連絡調整に全くノータッチで、何かあった時にはどうするのかという話である。射水市には「いのちのバトン」があり、そこには親族の情報が必ず入る形になっていたと思うが、いのちのバトンがうまく機能していないのではないかと。</p>
事務局	<p>市には一人暮らし高齢者の登録制度がある。一人暮らしの高齢者はたくさんおり、中でも家族が近くにいないとか支援が必要な方は登録して</p>

	<p>いただくことで、登録票で家族の状況等も把握している。命のバトンは、市社協に委託して実施しているが、その中には家族の状況も記載できるようになっている。緊急搬送される高齢者がいた場合は、その家族の方と連絡を取り合うことになっている。</p>
<p>会 長</p>	<p>市ではしっかり情報共有しているとのこと。また何かあれば市へ相談、要望してほしい。</p>
<p>委 員</p>	<p>昨年度からこの委員会に参加して、きめ細かい計画内容を勉強させていただいている。今回の計画の中では、「民間事業者と連携し、ニーズに合ったきめ細やかな生活支援サービスを提供する」という文言がある。62ページには、「配食見守りサービス事業」があるが、この中にも「民間事業者と連携し」という文言が出てくる。大手の給食、配食サービスの事業所は介護との連携がされているが、小規模の事業所だと情報が行き届いていないところもある。サービスが提供できるのに手掛けていない事業者もある。例えば理容組合では、介護施設に行って理容サービスの提供を行っているが、最近は独立して美容院を開業する女性も多くいる。女性は美容師さんにセットをしてもらおうと気持ちが高まり嬉しい気持ちになると思う。介護事業所と地元の商工会会員などとなるべく連携してほしい。情報共有や計画の内容を広く理解してもらい連携できればと思う。</p> <p>もう1点、介護施設で働く方が少ないという話があったが、やはり今はどこの事業所も人手不足であり、うちの商工会、商工会議所の会員事業所でも求人に変な苦労、苦戦しているのが現状である。その中で今年度、YouTube動画を配信して事業所を紹介する「事業所の見える化」を図ったところ、多くの事業所が求人動画を作成し、求人に繋がる場所もあった。すぐに求人に繋がらなくても、動画では事業所の状況がとてもよく見えて大変そうだけど、皆楽しく働いている様子が伝わる。これからは介護サービス事業所もこういった発信をすることで、若い方や転職を考えている人にも情報が伝われば良いと思った。</p>
<p>会 長</p>	<p>民間事業者の活用ということで、実際に地元の事業所に福祉サービスの的なことをお願いしている事例はあるのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>62ページには事業がいくつも書いてあるが、委員ご発言の訪問理容についてはこれまでもやってきた事業である。理容組合を通じて本人の希望する地元の理容店の方に訪問してもらっている。女性には美容院が良いという点についてはご意見を参考に今後検討していきたい。</p>

<p>会 長</p>	<p>その他の事業について、例えばおむつ事業については、既に民間の事業者で購入できるようになっているし、地域の事業者を活用しているところである。</p> <p>いろいろな事業者が参画できるようなサービス考えてもらいたい。私の母親もずっと特養にいたが、髪の毛を切ってもらっただけで化粧までのサービスはなかった。たまに行って口紅やマニキュアを塗ってあげるとすごく喜んで大事にしていた。それは福祉的なサービスなのかと言われると、やはり女性が女性らしく、自分らしく生きていくうえで化粧というのは、自分を表現する大事な部分でもあるので、それは福祉サービスとしてニーズはあるし、利用者も喜ばれると思う。理容だけではなく美容もサービスとして取り組むのはいいと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>地域振興会の活動の中でいろいろな団体があるが、団体ごとの整合性、調和、連携に格差がある。今回の地震で脆弱なところがはっきり見えた。どの地域も避難訓練をやっているが、大きな災害がなかったから形だけになっていたという反省がある。形だけ集まって、非常食を食べて、訓練したと勘違いしていた。</p> <p>今回の地震は4時10分だったので、晩御飯前だったと思うが、避難所に避難したらあっという間に21時になっていた。各コミュニティセンターに備蓄してある非常食を出したわけだが、例えば缶詰のパンなどを出しても皆喉を通らない。お湯を入れて食べる非常食も備蓄していたが、いざ食べるとなるとお湯を入れてから2、30分待たなければならず、一番喜ばれたのはカップラーメンだった。家にたくさん備蓄していた方がいて、それを配ったら一番喜ばれた。お湯をかけたなら3、4分で食べられ、喉も通りやすい。</p> <p>マニュアルにあるとおりの備蓄品で本当にいいのかとか思った。避難訓練に参加するのは皆健康な人だが、実際に車椅子の人が避難して来られ、座る体勢についても、畳の上に横になれない高齢者には長椅子を使うとか、コミュニティセンターの廊下の椅子などはソファ系の柔らかいものにしておけば転用ができると思った。</p> <p>それと、福祉避難所はどういう時に開設され、どういった人が避難できるのか教えてほしい。特に地震の時の避難方法については、訓練の時から周知していなかったと感じた。みんな山の方へ山の方へ逃げて、小杉のコストコや太閤山ランドまで渋滞が起きていた。津波の時には、どの道を通って避難するかという訓練や周知も必要だった。いろいろな改善点や反省点が見えてきたので、振興会としても話をしていきたい。</p> <p>もう一点、振興会にはいろいろな活動をしている団体があるが、各々</p>

	<p>で活動している。これらをまとめるものがないと、同じような内容のことをバラバラにやっていることになる。100歳体操を中心にした、地域支え合いネットワークを柱にすれば上手くまとまるのではないかと思っている。59ページの成果指標には、老人クラブとボランティアグループしか掲載されていないが、今からでも追加できるものならやってもらいたい。</p> <p>先ほど話にあったいのちのバトンだが、これがなかなか浸透しない。地域によって格差がある。まだ4割にも満たない地域がある。いざという時にはあれが威力を発揮すると思っている。</p> <p>それと、要介護者の親を抱えた家のご主人に聞いた話だが、要介護者を避難所へおんぶして行くと避難所の他の人に迷惑がかかると考えたそうで、避難所へは家族を避難させ、要介護者の親はおんぶして自宅の二階へ運んだ、しかし、親だけをそこに残すことはできず、自分も避難しなかったと言っていた。テレビ等では自分の命を一番に守れと言うが、もっと良い方法で避難できないものかと感じた。その家がもしも津波にあっていたら、要介護のおじいちゃんとお父さんは亡くなっていたかもしれない。現に能登では親を残してみんな避難して、あとから掘り返すとおじいさんが亡くなっていたという話も聞いた。切ないというか涙が出る思いだった。避難の呼びかけについても、一人でも命が助かるような良い言葉があれば良かったと思った。</p>
会 長	<p>福祉避難所について質問があったが、どういう時に開設されるのか説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>福祉避難所について、現在本市では、「災害時における福祉避難所としての使用に関する協定」を、令和6年2月1日現在、21法人53か所と協定を結んでいる。本市の地域防災計画では、支援が必要な方が福祉避難所に直接行けるような形にはしておらず、一旦指定された一次避難所に避難された後、保健師等がその方の状況を見て福祉避難所に行く必要があると判断した場合に、個々に福祉避難所へ移動する形をとっている。</p> <p>今回の能登地震では、1名が指定された避難所に行かれた後、そこでの避難生活が難しいということで、特別養護老人ホームに福祉避難所を開設し避難していただいた。</p>
会 長	<p>今の事例の場合も、一次避難所に連れていけばそこで保健師の方が確認し、福祉避難所に移してもらえたということ。</p>

委 員	移動は、災害が落ち着いてから安全にお願いしたい。
事 務 局	<p>今回の場合は、1日夕方に近所の方と一緒に一次避難所に避難したが、そこでの生活が難しいという判断で1月2日に福祉避難所に移動となった。</p> <p>受入先の施設の方も被災しており、機能維持をしなければいけないことや、受入体制の準備もある。今回は休日であったが、特別養護老人ホームに要請し、1名受け入れていただいた。</p>
委 員	誰か避難所に来て、福祉避難所への移動を判断するということか。
事 務 局	避難所にいる市職員、福祉関係者や保健師などがその方の状況などを見て判断する。今回は福祉避難所に移動した方が良いと判断した。市から施設に直接依頼して移動していただいた。
寺林委員	市の職員では判断できない人もいると思う。判断する人が巡回するのか、こちらから連絡して見に来てもらうのか。
事 務 局	両方である。今回は保健師が避難所を巡回している中で市職員からの連絡を受け取った。
	イ 保険料の算定について
委 員	<p>パブリックコメントに18件も意見があり驚いた。会長の説明では学生が8割とのことだったが、あと2割の年齢構成はどうだったのか。</p> <p>それともう一つ、地域ぐるみの介護予防活動の支援について、57ページでは、100歳体操を挙げているが、2年ほど前に地域福祉課主催のeスポーツ体験会をやっていて、私もそこに参加した。非常に素晴らしい、良いスポーツだなど思ったが、その後あまり言葉を聞かなくなった。第9期計画の中にもeスポーツという言葉が一つも出てこない。市としてはeスポーツについてどのように考えているか。</p> <p>それと100歳体操について、私は十何年継続しているが、参加者はマンネリ化の傾向にある。体操に何かプラスしたことを考えながらやっている。市から有酸素運動のDVDを頂いたこともあるが、今後またそういうものの配布予定はあるか。</p>
事 務 局	パブリックコメントの年齢構成については、意見書に年齢や性別を記

	<p>載する欄を設けておらず分からない。</p> <p>e スポーツの取り組みについて、委員ご説明のとおり、一度 e スポーツの体験会を行っている。この取組は、支え合いネットワーク事業の中で、各地域で取り組んでいただく新しい介護予防、また三世代交流の一つのツールとして紹介したものである。支え合いの補助金を活用し、既に取り組んでいる地域も数多くある。市老連と振興会が連携して取り組んでいる地域も出てきている。</p> <p>e スポーツを介護予防の一つとして、計画の中に取り上げるかどうか検討が必要と考えている。カーレットなど様々な新しい介護予防に取り組んでいただくツールを各地域に紹介しており、今のところその一つのツールということで紹介している。</p>
会 長	<p>e スポーツをどんどん活用すれば、子供たちとの交流の場にもなるのでいいと思う。</p>
委 員	<p>計画に用語集が付いて良かった。また、ふれあいサロン、100歳体操の二つの事業効果で基金が1億8千万円ほどプラスになったと聞いて、私は両方とも参加しているので非常に力になった。ただ、高齢者は「あの人がいるから私は参加しません。」という話を聞いたりもする。</p> <p>自治会広報で案内したら100歳体操の参加者が1人増えた。機会があったらケーブルテレビにも取材に来てほしい。</p>
会 長	<p>予定した時間を過ぎてしまった。保険料についてはどうか。特に反対はないか。それでは市から提示された6,250円で了承する。</p>
副 会 長	<p>計画の充実と保険料の値上げについて、時代の流れと言うか、保険料が上がることについては皆さん承知いただけると思う。値上げした分サービスが向上し、保険料がしっかり活用されていると実感が伴うようにしてほしい。</p>
会 長	<p>委員からの意見をもう一度事務局で精査し、次年度からしっかりと実施し、よりよい射水市になれば良いと思う。次年度以降も、委員の皆さんにはそれぞれの立場でのご理解とご協力をお願いする。これで議題の方を終了する。</p>